

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成 26 年度第 2 回知の探究サイバー協同学習支援委員会議事概要

- I. 日 時：平成 26 年 9 月 16 日(月) 17:00 から 18:30 まで
II. 場 所：私情協 事務局
III. 参加者：向殿担当理事、國領委員長、青木委員、大原アドバイザー
事務局：井端事務局長、野本、藤江（記）

IV. 検討事項

26 年度中にテーマの洗い出し、問題設定をして 27 年度の構想案へ進めていく。

V. 検討内容

1. 「イノベーション 25 戦略会議」中間とりまとめから

以下、要約

- ・ 社会的課題の解決に向けたイノベーションを考えるには、背景としてこれからの 21 世紀を展望する必要がある。イノベーションを戦略的に考えるときの視点として、以下の 3 点を基本として考えることが必要である。
 1. 未来を視る、未来を創る
 2. グローバル時代の日本の立場と課題
 3. イノベーションのカギは人づくり：「出る杭」を伸ばす
- ・ これからの 20 年は、高齢化が急速に進み、知識社会・ネットワーク社会及びグローバル化の爆発的進展、地球の持続可能性を脅かす課題の増大が考えられる。
- ・ 「グローバル化」時代の 21 世の底流として、長い間に培われた思想、文化、文明等から成る我々の「常識」、「価値観」、「生活規範」等を時には根底から問いなおしていただくことを認識しなければならない。ゼロベースで物事を考えていく基底が無いと新しい価値の創出などが生まれてこない。
- ・ 高等教育での日本人の選択肢は日本の中に限って考えることはなく、むしろ異文化、異質な価値観、文化との接触を推進することは、日本人であることの意識を高め、異文化の理解、許容した心を持ったグローバル化にふさわしい人間づくりや、複数の価値観を持ち、多様な発想ができるイノベティブな「人」づくりの大事な要件である。
- ・ これからの 5 年、10～20 年先に向けた世界の主要課題は「地球温暖化・気候変動-資源・エネルギー」、「水・食糧」、「人口増加」、「貧困-人間の安全保障」が背景にある。
- ・ イノベーションを考える上では分野横断的に、20 年くらいのスパンで物事を考えていく必要がある。

2. 委員の意見

(1) 構想の具体化に関する主な意見

- ・ 社会問題に貢献できるようなテーマを選び、参加者で解決策を出し合い、それをもとに起業するような学生が出てくるようなイメージでパイロット事業を行う。課題に対してフォーラム形式でグループ議論を重ね、それをコンテストのような形で発表させて優秀なものは表彰する。又、企業・社会に参加してもらい、就活につなげていくような形で考えたらどうか。
- ・ 20 年～30 年を見通せるような学びを志や気概のある若者を対象に実施したい。大学が複数集まってコンソーシアムを作って、更にそこに社会や企業、行政が参加して社会課題や世界

課題に対してチャレンジをさせたい。

- ・ 取り組みは社会科学、人文科学、自然科学など分野横断型で実施したい。分野横断型で全体を俯瞰するということは、知識を統合化することである。
- ・ コアの部分には専門性が必要だ。コアの部分をしっかり持っている学生を選定し、多面的なものを見方を出来る人材のサークルを作りたい。
- ・ 今までは専門性の領域で勉強して専門的知識を持つことを目標としてきたが、これからは教養としての専門の学びが重要だ。
- ・ 解決策を目的とするものなのか、問題点から課題を抽出するのか軸足を決める必要がある。

(2) テーマ設定に関する意見

- ・ 学生にとって社会貢献した気持ちや達成感を与えられないと意味がない。
- ・ テーマには、ある程度条件を付けた方が学びになりやすい。全く条件が無いのは取り組みが難しく、評価もしづらい。制限があると逆に面白くなる。
- ・ 「ビックデータや情報ツールを使う」などの条件を設定したらどうか。IoT(Internet of Things)などはおもしろい。
- ・ テーマを決める際には土俵を作る必要がある。地域社会の創生は、比較的、知識を体系化しなくても取り組みやすいテーマだと考える。
- ・ 学生にいきなり飛び込みで行政にぶつからせるのは厳しい。入りやすいのは自治体等であり、地域社会の創生をテーマとするのは賛成だ。
- ・ 地域社会の創生については、「風力等のエネルギー問題」、「医療問題」、「高齢者対策」、「地域活性化」、「防災」等の観点もあるので、①「安全・安心な社会の構築」、②「精神的豊かさを実感できる社会の構築」、③「地球環境の改善に貢献する社会の構築」、④「健康寿命の維持向上を促進する社会の構築」のすべてが入っているテーマだと思う。

(3) 今後の進め方について

- ・ テーマとしては「地域社会の創生」を中心に「安全・安心な社会」、「精神的豊かさを実感できる社会」、「地球環境の改善に貢献する社会」、「健康寿命の維持向上を促進する社会」を幅広く含めて、期間、対象となる学生、取り組みの条件等を検討し、パイロット事業の計画の具体化まで議論することとした。

VI. 今後のスケジュール

今回は、平成 27 年 1 月 15 日(木)9:30 から開催することとした。

以上